

いつも一緒 富山のペットたち

暑さが厳しい季節となりまし
た。気温や湿度が高いこの時期
は、ペットの皮膚のトラブルが
多くなります。人間は頻繁に入
浴しますが、犬や猫はどうした
らよいのでしょうか。今回はス
キンケアの1つとして、シャ
ンプーの方法を中心に紹介しま
す。



宮川 慎

アイビー動物病院院長
(射水市戸破)

夏のスキンケア

まずは犬や
猫の皮膚の特
徴を説明しま
しょう。犬や
猫は足の裏しか汗をかかないと
いわれますが、実際は全身に汗
腺があります。
ほとんどの汗腺は「アポクリ
ン汗腺」と呼ばれるもので、臭
いものになる汗を少量ながら
分泌します。体温を下げるため
に汗を出す「エクリン汗腺」は、
手足の裏に集中しており、緊張
すると多量の汗をかき出すも
ちです。
これらの汗腺から出てくる汗
と、毛穴の中にある皮脂腺など
の脂によって、表皮の湿度は保
たれ、皮膚免疫機能も維持され
ます。動物の体臭がしばしば強
くなるのは、タンパク質や脂肪
分などの汗の成分と水分が、細
菌の栄養として働き増殖するか
らです。
そのため、シャンプーをして

皮膚の保湿や皮膚免疫を損なわ
ずに、細菌の増殖をコントロー
ルしていくことが重要となっ
てきます。正しい方法で毛と皮膚
のお手入れをしてあげましょ
う。

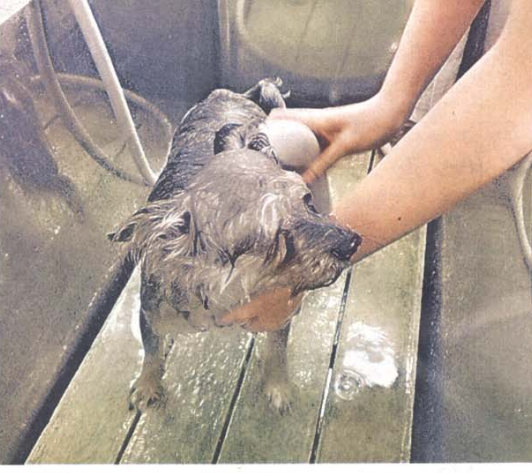
大切なブラッシング

猫は基本的に水が嫌いです。
自分でなめてきれいにする(グ
ルーミング)ので、全身のシャ
ンプーは必要ないかもしれませ
ん。しかし、グルーミングで毛
を大量に食べてしまい、嘔吐す
ることがあります。小まめにブ
ラッシングをしてください。

定期的にシャンプーを

犬は猫に比べて細菌感染によ
る皮膚病が多いため、1カ月か
ら数カ月毎に1回程度、定期的
にシャンプーするとよいです。
頻繁に洗うと皮膚の脂分と
水分が取れ過ぎて、皮膚病にな
る恐れがあります。

皮膚が健康な状態の犬の場
合、当院でお勧めしているシャ
ンプーの方法は次の通りです。



毛と皮膚をたっぷりぬらしてシャンプーする。
ぬるま湯や水で、しっかりとすすぐ。



猫はグルーミングで毛を度
々、嘔吐することがある。
小まめにブラッシングを

シャンプーの前に、十分にブ
ラッシングをしておきます。こ
こで頑固しておかないと、洗っ
た後に毛玉だらけになってしま
います。背中側だけでなく、少
しやりにくいおなか側もしっか
りとブラッシングをしましょう。

十分にすすぐ
シャンプー剤は5〜10倍ほど
に薄めます。体全体に掛け、毛
だけに毛玉だらけにならないよ
うに洗います。シャンプーの原液をか
けるのはお勧めできません。市
販のシャンプーの中には刺激が
強すぎるものもあるので注意が
必要です。

動物病院で処方される薬用シ
ヤンプーは、市販のシャンプー
と使用方法が異なります。皮膚
病のワンちゃんについては、獣
医師の指示に従って行ってくだ
さい。

2013(平成25)年7月4日
北日本新聞